





医療

大目標：キリスト教的人類愛に根差した建学の精神と、創立以来50年で培った医療技術で、誰ひとり取り残さない医療を継続します。

※テーマをクリックいただきますと詳細をご確認いただけます。

テーマ	SDGs該当目標	2023年度実績
感染症・パンデミックへの対応	 	<ul style="list-style-type: none">■救急車は、7月から2次救急まで拡大したことにより、現在は年間10,000台以上となるペースで応需している。■川崎市内の不应需患者を聖マリアンナ医科大学病院で受け入れることで、川崎市外への流出を防ぎ、川崎市の救急医療の中心的な立ち位置となっている。■国内でも有数の集中治療医が在籍しており、重症病棟66床の受け入れも現在では90%近い数値となっている。
動物介在療法 病と闘う患者さまとその家族に寄り添い、医療現場の笑顔に貢献	 	<ul style="list-style-type: none">■動物介在療法の有効性の科学的かつ定量的、客観的な評価は、現在もデータを蓄積中である。■2023年度は2代目勤務犬のモリスが引退し、3代目ハクが就任した。ハンドラー業務も、日本介助犬協会の指導を受け認定を受けた新たなハンドラーである看護師2名に引き継がれた。ハンドラーの増員にはいたらなかったが、AATの依頼数の増加により活動日の増加を検討中である。ハンドラーの増員と活動環境の整備は継続すべき今後の課題である。■管理料取得に向けた活動としては、小泉 進次郎衆議院議員・川崎 修平神奈川県議員に2023年春にAATの現場を見学していただき、お二人のご尽力により2024年2月に厚生労働省の役員のAAT見学が実現した。今後も効果と安全性のデータの蓄積と国の関係部署へ働きかけを継続したい。